

調査報告 2

カントー大学を訪問して

中村学園大学 流通科学部

山田 啓 一

1. はじめに

2011年8月21日～27日にホーチミン市を中心にベトナム南部を訪問した。8月22日朝、ホーチミン市からアンジャン省経由でメコンデルタの中心都市カントー市に向かった。途中で企業訪問を1社行った後、午後遅くカントー市に到着した。車で一般道路を行き、途中メコン川をフェリーで渡る6時間あまりの小旅行となった。

メコンデルタは、面積約4百万ヘクタールの土地に1,800万人が暮らしている、ベトナム最大の農業生産地域であり、ベトナムを代表する

米の産地である。米のほか、果物および水産資源にも恵まれている風光明媚な豊かな土地である¹。

翌8月23日、われわれはカントー市にあるカントー大学を訪問した。今回の訪問メンバーは、中村量一本学理事長および流通科学研究所の甲斐諭所長、浅岡柚美、徐寿、小林修、および筆者の各研究員である。通訳としてアン氏に同行していただいた。訪問先は、午前中に経済・経営管理学部、午後に農学部であった。以下、訪問の概要を報告する。



1 Can Tho University Website (<http://www.ctu.edu.vn/en/> 2011年11月22日)

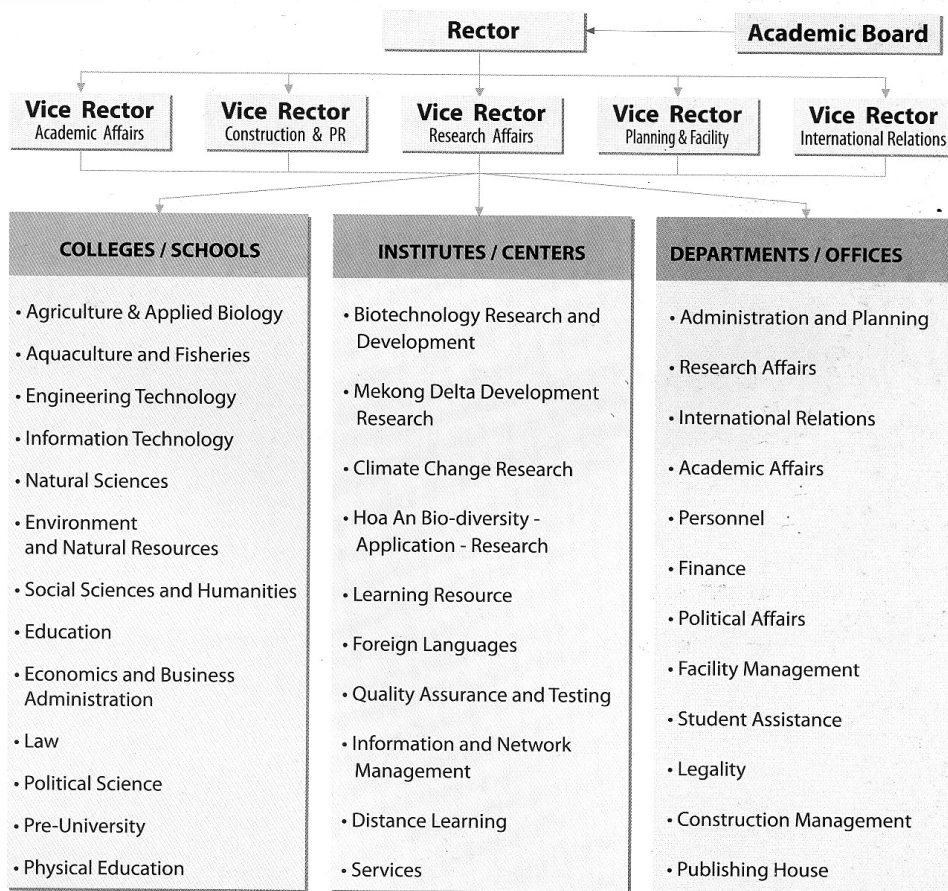
2. カントー大学の概要

カントー大学は、1966年に設立されたメコンデルタを代表する高等教育機関である。高品質の教育プログラムを通じて、メコンデルタ地域の社会的経済の発展を促進するために、訓練、科学研究の実施および技術の移転に焦点を当てている。2020年までの戦略的ビジョンは、ベトナムにおける最高の大学になるばかりでなく、教育および研究開発の分野でアジア太平洋におけるリーダーとして認知されることにある。図表1に示すとおり、農学部、経済・経営管理学部をはじめとする学部、研究機関等を有する総

合大学である。カントー大学の目標は、ベトナム国内での評判を強化するとともに、国際的な大学の仲間入りをするることである。この目標を達成するため、研究、教育、ノウハウの移転、サービスの絶え間のない改善を図っている。

カントー大学は、1966年に4学部でスタートし、1994年と1995年に構造再編が実施され、ベトナムの400の高等教育機関のうちの14の主要大学の1つに選出された。2000年までには、メコンデルタ地域における最大かつ唯一の総合大学となり、地域貢献を行ってきている。

図表1 カントー大学の組織²



2 Can Tho University パンフレット

カントー大学は、現在、全学で2,000人のスタッフおよび40,000人におよぶ学生を有している。

3. 経済・経営管理学部訪問

経済・経営管理学部 (SEBA: School of Economics and Business Administration、以下 SEBA とする) は、1979年に設立された農業経済学部を母体としており、当初は農学士の学位をもつ7名のスタッフで出発した。わずか30年あまりの間に、111名のスタッフ、学部学生4,942名、大学院生361名を有する規模に成長した。SEBA は現在、会計・監査 (Accounting-Auditing)、財務・金融 (Finance-Banking)、経営管理 (Business Administration)、マーケティングおよび観光サービス (Marketing and Tourism-Services)、農業経済および資源、環境経済学 (Agricultural Economics and Resources-Environmental Economics)、経済学 (Economics) の6部門から成り、学部および修士課程のプログラムを提供している。

また、SEBA はメコンデルタ地域で、経済および経営管理のコンサルティングおよびトレーニング事業も行っている。さらに地域の行政機関と共同でメコンデルタ地域の経済発展に資する研究を行っているほか、メコンデルタ地域における中小企業の開発、マーケティング、地域開発等の研究活動を行ってきた。

訪問に際して、MAI VAN NAM 学部長、QUAN MINH NHUT 副学部長、YEN OANH 先生がわれわれの訪問に対応してくれた。面談では、大学、学部の状況や研究内容、留学や海外交流の状況などについて説明を受け、本学の状況についても説明を行った。今後は、お互いの研究者の研究分野や業績等の一覧表の交換や研究者、学生等の交換なども視野に据え、引き続き交流を行っていくこととなった。



4. 農学・応用生物学部訪問

農学・応用生物学部 (CAAB: College of Agriculture and Applied Biology、以下 CAAB とする) は、1968年に設立された農学部を母体としており、1975年以来、作物学 (Crop Sciences)、作物栽培学 (Agronomy)、畜産・家畜学 (Animal Husbandry)、獣医学 (Veterinary Medicine)、食品技術 (Food Technology)、植物防疫 (Plant Protection)、土地管理 (Land Management)、土壌学 (Soil Science)、観賞植物 (Ornamental Plants) といったコースを開設してきた。2005年、農学部は、現在の名称に改名され、現在に至っている。現在のスタッフは279名、学部学生は3,328名、大学院生は609名となっている。

CAAB は、作物学 (Crop Science)、土壌学 (Soil Science)、植物防疫 (Plant Protection)、食品技術 (Food Technology)、動物学 (Animal Sciences)、獣医学 (Veterinary Medicine)、生理学と生化学 (Physiology and Biochemistry)、農業遺伝学と育種 (Agricultural Genetics and Breeding)、土地資源 (Land Resources) の9部門から成り、学部、修士課程、博士課程の3つのプログラムを提供している。

訪問に際しては、LY NGUYEN BINH 副学部長 兼 国際交流委員長と面談し、学部の内容について説明を受け、本学の状況についても

説明を行った。また、今後学術交流を行っていくことも確認し、同学部の研究者の研究成果について貴重な資料を提供していただいた。

5. おわりに

中村学園大学流通科学部では平成25年度よりアジアビジネスコースを開設するべく準備中である。アジアビジネスコースでは、海外スカラシップ・プログラムと海外インターンシップ・プログラムを計画しており、成績優秀者の中から希望に応じて選抜によりこれらのプログラムに学生を派遣する予定である。今回のカントー大学訪問は、この海外スカラシップの提携校を探すという目的もあった。

発展するベトナムにあって農業経済の中心地

であるメコンデルタの中心都市カントー市はわが国の食の流通にとっても今後大きな影響を及ぼすことが考えられる。英語で教育を行い、またそのための語学センターを有するカントー大学へ学生を派遣することは、ベトナム語と英語の2か国語を習得し、ベトナムの文化やビジネスを学ぶこともでき、アジアのビジネスパーソンを育てるうえで有効であると考えられる。

もちろんベトナム経済の中心はホーチミン市であり、同市の大学との提携も視野に入れた活動を今後も継続することが重要であろう。難をいえば、カントー大学は日本から遠い場所にあることであろう。高速鉄道あるいは高速道路、航空サービスなどホーチミン市からのアクセスの改善が望まれるところである。